



市長・議長 明けましておめでとうございます。被災された皆さまにはお見舞い申し上げます。

西日本豪雨の 発災当時を振り返る

議長 昨年7月は忘れられない西日本豪雨が発生しましたね。

市長 7月6日の夜は高梁川が決壊するのでは、と覚悟を決めていました。

1人でも多く避難させようと必死でした。22時15分に避難指示を出し、15分後には町内会長らを集め「避難誘導をしてくれ」と強く訴えました。

議長 議会は予定していた委員会を中止しました。

市長から1人でも多く避難を呼び掛けてと言われ、議員みんなで手分けをして声を掛けました。

市長 結果、約8500人が避難してくれました。

平成最後の



Yasuhiro Kato

新春対談

西日本豪雨 を語る

総社市長
片岡 聡一

総社市議会議員
加藤 保博

議長 何も被害がなかったらと神様に祈るだけでした。越水や工場爆発の情報が入った時には、身近なことのようには見えませんでした。

市長 市役所では職員を全員集めて「自分の命を守りなさい」と言ったんです。でも職員は逃げずに避難所開設に飛んでいきました。22時過ぎには避難所が全部できていたことを思うと、素早くよくやってくれたと思います。

議長 あの日の夜は高梁川の決壊のことばかり心配していましたから、昭和や下原の惨状が分かったのは翌朝でした。情報は入っていました、まさかあそこまでとは。

市長 「20人が流された」「作原が2階まで浸水している」との情報が入り、消防隊員も救助に駆けつけました。初動について悔いはありません。災害対策本部長として、幹部職員をはじめ全職員に本気を伝えるという



ことは意識しましたね。

若い力が 立ち上がった

市長 高校生から「何か手伝えることはありませんか」と、ツイッターに投稿があり「市役所に来てくれ」と返信しました。

その他のどんな連絡にも必ず返信していました。

議長 あの忙しさの中で、**市長** そのツイッターがきっかけで、夜が明けたころに市役所の外を見た

ら大勢の人がいて、よく見ると中高生が約1000人。「私たちに何か手伝わせて!!」とみんなから言われたときはジーンとききましたね。

議長 7日の朝から、議員もがれきの片付けをしたり、避難所に飲料水などの物資を運んだりしました。私は作原地区の泥かきに行っていたので、市役所に集った彼らの姿を見ていませんが、作原にも若い人がいっぱい来ていました。

市長 それは、市役所職員が先頭をきって全国の被災地に災害支援に行く背中を見てくれたからだと思います。中高校生たちの熱意は市民全体を動かしたと思います。安全靴も装備も何もない丸腰で泥の中に飛び込んでいった彼らは、本当にあつぱれ。総社市の未来を委ねて何の心配もありません。

議長 私もそう思いま

した。みんな本当に立派で感激しました。

災害対応も 総社流で

議長 発災1週間後くらいから連日、災害対策本部会議に出席しました。市長は即決し英断されましたね。

市長 議長がいらっしゃったからです。他自治体の災害対策本部会議にはないことです。行政的に言うとうすごいことです。

議長 今回フリーマーケット方式で支援物資を配布しました。全国からも注目を浴びたと思います。

市長 送っていただけの物資は一切断らないのが私の方針でした。

議長 支援物資の仕分けでも大勢のボランティアが活躍していました。議員も毎日数人ずつが仕分けの作業を行いました。

市長 皆さん思いがあるから送ってくれます。必要、不必要は言えませ

ん。2万人以上から物資をいただきました。本当にありがたかったです。東日本大震災を経験した前仙台市長から「有事の際は物資を運ぶことができなくなる。職員が動けなくなる」と聞いていました。まさにそうなり、物資はあるけど運べないのでフリーマーケットを開設し、議会にも助けをもらいました。これもありがたかったですね。

議長 あれだけ被災者に喜ばれたら、最後までやめるわけにはいきません。

市長 被災者にもプライドがあります。配給制度のように配るのではなく、ご自由にお取りくださいというやり方なら、行政もボランティアも被災者も物資の提供者も、みんな平等で同じ位置、目線。この共存共栄の方法がフリーマーケットです。総社方式として今、全国で展開されています。真備町民を含めて喜んでくれて良かったです。